

## 【高校生の部】 最優秀賞

### 「1人1人の行動で地球を変えよう、手遅れになる前に」

関西学院千里国際高等部 3年 おいた せいら 追田 星空

大量の雨、大きな雷、季節外れの気温。近年異常気象が多発して、ようやく世界は少しずつ動き始めた。そして私は思った、「人々は、実際に自分が危機を感じないと行動しないのか」と。

異常気象がこれほど多発する前にも、既に地球の危機を訴える研究者たちはいたのだろう。しかし大量生産・大量消費の時代、地球のことは考えもせず「儲け」を求めて地球をどんどん悪化させた。その間にも北極の氷は溶け始め、海面上昇が起こり、サンゴ礁は白化し、例年と異なる気温の変化で生態系が崩れたり、気候変動により被害が出ていた地域もあっただろう。私たち人間の行動は、何も悪くない生き物や自然にまで影響を与えているのだ。

現在日本では、二酸化炭素を多く排出する石炭火力発電所は多く使われており再生可能エネルギー発電所の普及は高くはない。自動車から出る排気ガスもまだまだ多く環境をどんどん汚している。プラスチックを多く使用し海洋汚染の原因になっている。私たち人間が「便利」に暮らすために、地球が負担を背負っているのだ。

私は学校で「地球温暖化と気候変動」について色々と勉強する機会があった。そこで私は初めて、このような地球の危機的現状を知った。そして「ティッピングポイント」というものが間近に迫っていることも知った。気候変動における「ティッピングポイント」というのは、気温が上昇してある気温を超えたら、氷床がここまで溶けたら、森林が世界からこれぐらい無くなったら、地球はこれ以上歯止めが効かなくなるという一定のラインのことだ。ティッピングポイントを過ぎれば、「こんなことになると思わなかった」じゃ済まない。私たちは止めたくても止められない、もう手遅れの状態になってしまっているのだ。

こんな世界が来ることなんて誰も望んでいない、だから「今」行動しなければならない。私はこんな地球の現状を知って、そう思うようになった。

「今の私たちの行動が未来を決める」逆に言えば「今の私たちの行動で未来を変えられる」。だから私は今自分にできることをしたいと思った。

現在、世界的に有名となっている環境活動家「グレタ・トゥーンベリ」さんを知っているだろうか。彼女は15歳で「気候のための学校ストライキ」をするために、スウェーデン議会の外で座り込み、より強い気候変動対策を訴えた。私は彼女を初めて知ったとき、衝撃と刺激を受けた。私と同世代である彼女が、1人で行動に移して今では世界にまで影響を与える人となり、現在の地球温暖化に対する世界の意識は彼女によって変わったと言っても過言ではないだろう。

彼女は大きな行動力で世界を変えた。しかし私にはそんな大きな行動力はない。だからと言って行動しないのは違うと思う。だから私は小さなことでも行動しようと思った。

まず、世界中で行われた国際的な気候変動や温暖化を訴えるストライキ「グローバル気候マーチ」に参加することにした。初めてこのようなストライキに参加するため少し勇気が必要だったが、友達を誘い、SNS でも当日の様子を発信した。他にも私が日常的にしていることは、マイバック・マイボトルを持ち歩いたり、資源をあまり使わないこと。そして特に大切にしていることは「SNS での情報発信」を通して「知ってもらう」こと。これらはどれも簡単に始められる・続けられることだ。1 人の行動は地球規模で見たらとても小さなことかもしれない、だがその行動は周りの人の行動やマインドを変えることができる。自分が誰か 1 人のインフルエンサーになることで、その連鎖は続いていくと思う。そして 1 人 1 人の行動が変われば大きな力となり、地球を変えることができる。誰もができること、それを皆がすれば地球は変わる。

しかしそれができない人も沢山いる。だからこそ企業や政府も行動すべきなのだと思ふ。企業には企業にしかできない行動、政府には政府しかできない行動がある。例えば、政府が 2020 年 7 月からレジ袋有料化を義務付けた。もともとレジ袋を辞退すれば値引きが行われている店舗もあったが、レジ袋をもらう人は多かった。しかし現在レジ袋の有料化が行われたことにより、多くの人がマイバックを持ち歩き、レジ袋をもらう人を見る光景は大幅に少なくなった。実際、私はアルバイト先で袋をもらう人が極端に減ったことに、とても驚いた。

このように、1 人 1 人の行動に加え、企業や政府の行動によって社会は大きく変わることができる。だからそれぞれの立場でできることをすれば、地球を大切にできる社会が待っていると思う。

どんどん地球を汚していった過去は変えられない。だから今からでも美しい地球を取り戻すために行動する。私たちが未来を作れるのだから。だからこそ今私たちがやるべきことをやる。

行動しよう、明るい未来のために。